

## 学校現場から 考える

### グローバル化の現状を 教師がキャッチすべき

まず、グローバル化に対するお考えから教えてください。

**渡會** 日常生活の中で、地方の生徒がグローバル化を実感することはあまりありません。しかし、就職した卒業生に聞くと「今の時代、英語は不可欠」と口を揃えます。高校の中でグローバル化を実感しにくいのなら、卒業生など社会の現状を知る人の言葉を借りるなど、教師が工夫して社会の実情を伝えなければいけないと感じています。

**藤澤** 地方こそグローバル化の影響を直に受けるのだと私は思います。

## 日本人らしさを強みに 世界に生きる人材を地域で育てる

社会のグローバル化が進む中で、高校はグローバル化社会に必要な力をどう考え、人材の育成に取り組んでいくべきなのだろうか。主体的に世界に生きる3人のインタビューを踏まえ、山形と高知の若き英語科教師が語り合う。



「集団の力を最大限に引き出す  
リーダーになれる可能性を  
日本人は持っている」

TPP（環太平洋経済連携協定）の問題でも、最初に変化を迫られるのが農業であり、地方です。まず教師が世界の動きをつかむアンテナを持ち、それが自分たちの生活にどう影響するかを生徒に語る力を身に付けたいと思います。

**渡會** 本校の卒業生の多くは、大学卒業後、東京や大阪などの都市部で就職しますが、そこではきつと海外との接点が多い仕事や、多様な価値観の中で働く環境が待ち受けている

はずです。そう考えると、どのような環境でも活躍できる力は、地方の高校生ほど必要といえるのではないのでしょうか。また、地元地域に残るにしても、外に目を向ける力がなければ、地域の状況を深く理解することは出来ないでしょう。

**藤澤** グローバル企業の採用枠を外国人学生と競うような学生だけでなく、地域にとどまる学生もグローバル化の中で生きていくことを意識しなければならぬと思います。

### 高知県・私立土佐塾中学・高校

- ◎設立 1987 (昭和62)年
- ◎形態 全日制／普通科／共学
- ◎生徒数 1学年約200人
- ◎12年度入試合格実績(現浪計) 国公立大は、東北大、筑波大、東京大、岡山大、高知大などに75人が合格。私立大は、慶應義塾大、東京理大、早稲田大、同志社大、立命館大、近畿大などに318人が合格。
- ◎住所 〒780-8026 高知県高知市北中山85
- ◎電話 088-831-1717
- ◎Web Site <http://www.tosajuku.ed.jp/>

### 山形県立米沢興譲館高校

- ◎設立 1886 (明治19)年
- ◎形態 全日制／普通科・理数科／共学
- ◎生徒数 1学年約200人
- ◎12年度入試合格実績(現浪計) 国公立大は、東北大、山形大、福島大、筑波大、東京大などに149人が合格。私立大は、東北学院大、慶應義塾大、上智大、中央大、東京理大、早稲田大などに164人が合格。
- ◎住所 〒992-1443 山形県米沢市大字笹野1101
- ◎電話 0238-38-4741
- ◎Web Site <http://www.yonezawakojokan-h.ed.jp/>

高知県・私立土佐塾中学・高校

## 藤澤佑介

ふじさわ・ゆうすけ

教職歴7年。英語科。新任以来、同校に勤務。留学生の派遣と受け入れなどを担当する国際部部长。



山形県立米沢興譲館高校

## 渡會朋和

わたらい・ともかず

教職歴14年。英語科。新任以来、同校に勤務。1学年担任、英語科主任。

### グローバル化社会に生きる人材像を問い直すべき

— 今回の特集では、グローバル企業に身を置くビジネスパーソンとは異なる方々をご紹介します。

**渡會** そもそも、今後高校で育てるべき人材とはどのようなものなのか、私たちは突き詰めて考えるべきでしょう。「英語が話せて、グローバル企業に就職できる」といった表面的なことではなく、高知や山形のような地域にいても求められる、より普遍的な力を定義したいです。

**藤澤** 小原祥嵩さん（P8に登場）は、ビジネスにおいても日本人の思いやりや気配りが世界で評価されているとおっしゃっています。私たちは、そうした日本人としての強みを伸ばすこともっと意識すべきかもしれないですね。英語の授業などでは、自分の意見をしっかりと発信することに力点を置きがちですが、自分を主張することが出来ても、人の話をきちんと聞いて、相手の気持ちを大切に

にすることが出来なければ、無用な対立が生じるでしょう。日本人がこれまで大切にしてきた精神性こそ、これからの時代で大切なのだという気がします。

**渡會** 日本人は、日本人らしさを生かして世界で活躍できるのだと私も3人のインタビュー内容を聞いて思いました。私たちは、固定化された「グローバル人材」のイメージそのものを問い直す必要がある気がします。英語も、対立する相手をディベートで打ち負かすために身に付けるのではなく、差異を理解し、他者とながらための道具であってほしいです。そういうイメージを持つことが出来れば、人の話をじっくり聞ける日本人は、英語をうまく使いこなして、グローバルな人間関係を広く築くことが出来るかもしれません。



「どのような環境でも活躍できる力が  
地方の高校生には必要」

貢献の意識は、  
学校の日常で育つ

— 海外に出て行く理由として、小

**藤澤** 辻坂文子さん（P11に登場）もおっしゃっていますが、人の話をきちんと聞くことが出来る日本人は、集団の力を最大限に引き出すリーダーになれる可能性を持っていると思います。個々のメンバーを支援することで集団の持つ潜在能力を最大限に発揮する「サーバントリーダー」は、グローバル社会でのリーダー像の1つとして生徒に教えたいですね。それによって、海外で異なる価値観の人たちとチームになって働くことの喜びや苦労が分かり、結果的に海外へ出ることへの心理的なハードルが下がるかもしれません。

特集

「主体性」の育成③

世界に生きる人材を育てる

原さん、辻坂さんの活動からは「貢献」や「新しい幸せの発見」が挙げられました。

**藤澤** 転勤で否応なく行くというのではなく、やりがいや自分の価値を高め、社会に貢献するために主体的に海外に出るという選択肢があることを、ほとんどの生徒はまだイメージできていないでしょう。教師として、将来生徒がどういう目的、気持ちで海外に出て行くのか、もっと広く想像してみたいと思いました。

**渡會** 本校の校歌に「わが力わが誠世のために尽くさん」という一節があります。他者のために力を尽くそうというのは、それこそ日本人が古くから大切にしてきた精神性であり、多くの高校の教育として掲げられているものですね。

**藤澤** それが単なるお題目になってしまうのかどうかは、担任がクラスという集団をどうつくり上げているかにかかっています。自分のクラスが、これからの社会のあるべき縮図として生き生きと輝いているか、私たちは常に自分に問い掛けることが大切だと思います。

**渡會** クラスでの人間関係を通し



## 「おもしろいと感ずる 実体験の積み重ねが 一歩踏み出す勇気を生む」

て、「他者のために」という意識が育った生徒は仲間を裏切りません。そのような生徒は、例えば推薦入試で一足先に合格しても、一般入試を目指す仲間の勉強を手伝うなど、他の人のために自分の時間を使おうとしますし、教師に添削をしてもらった時は、きちんと感謝の言葉を述べることが出来ます。どれだけの生徒がそのように育つかは、クラスの雰囲気と密接にかかわっています。

**藤澤** 学校の豊かな人間関係の中で育った人材こそ、将来、世界への貢献のために海外に出ることが出来るのでしょね。私たちがクラスの中でそうした心を育てることが、ひいては日本のためになるでしょう。

## 話したい、伝えたいと 生徒が切望する仕掛けを

——グローバル化社会に生きる人材

の育成のために、今後どんな指導を行うか、展望を教えてください。

**渡會** 本校は2016年度まで、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の研究指定校になりました。英語による表現力や国際性の育成も重視しているため、生徒の課題研究の発表に山形大などの留学生に参加してもらい、意見交換することも計画しています。発表原稿を英語で書き、読むだけにとどまらず、発信した内容に対する意見や質問を受信して、生徒が再び発信するまでを目標にしています。英語で双方向のやり取りが出来るレベルに生徒を引き上げることが、今回のSSHの狙いの1つでもあります。英語の必要性を実感しにくい地域にある本校ですが、SSHを最大限に活用して、生徒の意識を変えたいです。

**藤澤** 本校でも留学生の受け入れを積極的に行っていますが、外国から

来た仲間と仲良くおしゃべりできるというレベルから、一緒に考えたり、何かを生み出したり出来るようになることが次の目標だと感じています。そこで、これは私案ですが、高知にアメリカの高校生を呼んで、日本の文化や生活について海外の人たちに紹介したり、日本の地域の過疎の問題についてどんな解決策があるかを話し合ったりするといった、体験型の学習プログラムが実現できないかと考えています。ですから、おせきざと小関哲さん（P13に登場）の平戸島、小値賀島での活動は、私の考えていることと、とても近くて驚きました。ローカルな出会いを掘り下げること、思考がグローバルになるという考え方にも、とても共感します。

**渡會** 生徒は、同世代の外国人と話した時に、上手に思いが伝えられず、悔しい思いもするでしょうね。

**藤澤** あの時、自分の考えを英語で話せたら、もっと話が盛り上がった楽しかったのに……といった学習の必要性を認識させる出会いをつくっていきたいです。「伝えたい」という、魂を揺さぶられるような出会い

をどれだけ演出できるかですね。  
**渡會** 良質な双方向性を維持するのは、分かってもらおう、分かってあげたいという気持ちなのだということを生徒に実感させたいと思います。その上で、せっかくなら、もっと格好よく話したいと思うようになれば、その時、主体的な教科学習へとつながるでしょう。

### 一歩踏み出す突破力を 寄り添いながら育む

**藤澤** 内向きだといわれる最近の若者たちですが、日々生徒と接していると、彼らも自分の考えを発信したいし、自分と違う意見を聞きたいという欲求を持っていると感じます。デジタル環境が発達した今の時代はさまざまなコミュニケーション



「あきらめられない夢を  
持つことが壁を  
突破する力になる」

ルがありますから、工夫次第で一般の高校生でも海外とつながることが出来ます。授業でも、世界でリアルタイムに起こっている出来事に対して、海外の人々はどう考えているのか、ツイッターの発言などを追いつけていけば、生徒と世界の距離は一気に縮まるでしょう。

**渡會** 確かにツイッターなどを指導に活用することには、さまざまなリスクもありますが、だからといって使わないとすぐに決めてしまうのではなく、どうすればうまく使えるかを考える時代になっていると思います。デジタル化のメリットを生かす工夫と勇気が教師に必要ですよ。  
**藤澤** 高校で英語力を身に付け、さらに日本人としての豊かな精神性を高めることは確かに大切ですが、実際に一歩足を踏み出せる力、おもし

ろそんなことに飛び込む力も高校で身に付けさせたいですね。やってみよう、行ってみようと思う行動力は、実際にやってみておもしろかったという体験の積み重ねで身に付くものだと思います。私は、関心のありそうな生徒には海外研修の募集などを積極的に紹介しています。外へ出て行くことが特別なことではないという雰囲気を作ることが、生徒の背中を少し押してあげることが必要だと思います。

**渡會** 最近の生徒を見ると、確実に後戻りできるところまでしか行こうとしないような気がします。この道が正解かどうかは分からないけども、大きな夢を描いて壁を突破する力を身に付けさせることが大切だと私も思います。そのためには強い目的意識や、簡単にはあきらめられない夢の存在が必要です。それがあればもう一歩先に進んでみようという気持ちになるはずですから。少しずつでも先に進めば、夢が夢で終わらずに現実になることを、生徒と二人三脚で教えたいと思っています。



**藤澤** 海外研修などの鮮烈な体験で一気に変わる生徒もいますが、多くの生徒はゆっくりとしか変わりません。しかも、進んでは戻るのが繰り返します。自分の進める範囲、出来ることを少しずつ広げる生徒に対して、昨日よりも少しでも出来るようになったことや、挑戦しようとする姿勢を見逃さないで評価したいと思います。そうした教室での地道な積み重ねが、生徒の世界を大きく広げられると信じています。